Author 綾部, 麻美(Ayabe, Publisher 慶應義塾大学 Publication year 2019 Jtitle 学事振興資金研究所 JaLC DOI Abstract 本研究は、フランジが詩と、絵画や彫刻とを目的とする。なに対する考察を深いではないか、といるこの問いに対しても自の物質主義と、デが一貫していること	ace" of Francis Ponge: poetry and plastic arts Mami) 成果実績報告書 (2018.) シス・ポンジュの詩における造形芸術の重要性を考慮し、ポンジュのテクスト 刻という異なる分野をどのように結びつけ、表現しているかを明らかにするこポンジュは美術批評的テクストを手がけるなかで二次元の芸術と三次元の芸術 め、それらの境目を揺るがしながら「体験の感覚」を作り出そうとしているのう仮定が検証された。 まず、美術批評的テクスト全体にわたって、文字の物質性に基づくポンジュ独テクストを対象とする事物(人物)それぞれの特質に合わせて適応させる詩法
Author 綾部, 麻美(Ayabe, Publisher 慶應義塾大学 Publication year 2019 Jtitle 学事振興資金研究所 JaLC DOI Abstract 本研究は、フランジが詩と、絵画や彫刻とを目的とする。なに対する考察を深いてはないか、といるこの問いに対しても自の物質主義と、デが一貫していること	Mami) 成果実績報告書 (2018.) シス・ポンジュの詩における造形芸術の重要性を考慮し、ポンジュのテクスト 刻という異なる分野をどのように結びつけ、表現しているかを明らかにするこ ポンジュは美術批評的テクストを手がけるなかで二次元の芸術と三次元の芸術 め、それらの境目を揺るがしながら「体験の感覚」を作り出そうとしているの う仮定が検証された。 まず、美術批評的テクスト全体にわたって、文字の物質性に基づくポンジュ独
Publication year 2019 Jtitle 学事振興資金研究所 JaLC DOI Abstract 本研究は、フランが詩と、絵画や彫刻とを目的とする。ではないか、といるこの問いに対しても自の物質主義と、デが一貫していること	シス・ポンジュの詩における造形芸術の重要性を考慮し、ポンジュのテクスト 刻という異なる分野をどのように結びつけ、表現しているかを明らかにするこ ポンジュは美術批評的テクストを手がけるなかで二次元の芸術と三次元の芸術 め、それらの境目を揺るがしながら「体験の感覚」を作り出そうとしているの う仮定が検証された。 まず、美術批評的テクスト全体にわたって、文字の物質性に基づくポンジュ独
Jtitle 学事振興資金研究所 JaLC DOI Abstract 本研究は、フラン語が詩と、絵画や彫刻とを目的とする。ではないか、といるこの問いに対しても自の物質主義と、語が一貫していること	シス・ポンジュの詩における造形芸術の重要性を考慮し、ポンジュのテクスト 刻という異なる分野をどのように結びつけ、表現しているかを明らかにするこ ポンジュは美術批評的テクストを手がけるなかで二次元の芸術と三次元の芸術 め、それらの境目を揺るがしながら「体験の感覚」を作り出そうとしているの う仮定が検証された。 まず、美術批評的テクスト全体にわたって、文字の物質性に基づくポンジュ独
JaLC DOI Abstract 本研究は、フランが詩と、絵画や彫刻とを目的とする。ではないか、というこの問いに対しても自の物質主義と、ではないることを表している。	シス・ポンジュの詩における造形芸術の重要性を考慮し、ポンジュのテクスト 刻という異なる分野をどのように結びつけ、表現しているかを明らかにするこ ポンジュは美術批評的テクストを手がけるなかで二次元の芸術と三次元の芸術 め、それらの境目を揺るがしながら「体験の感覚」を作り出そうとしているの う仮定が検証された。 まず、美術批評的テクスト全体にわたって、文字の物質性に基づくポンジュ独
Abstract 本研究は、フランデが詩と、絵画や彫刻とを目的とする。でに対する考察を深めてはないか、というこの問いに対しても自の物質主義と、デ	刻という異なる分野をどのように結びつけ、表現しているかを明らかにするこポンジュは美術批評的テクストを手がけるなかで二次元の芸術と三次元の芸術め、それらの境目を揺るがしながら「体験の感覚」を作り出そうとしているのう仮定が検証された。 まず、美術批評的テクスト全体にわたって、文字の物質性に基づくポンジュ独
が詩と、絵画や彫刻とを目的とする。 なに対する考察を深めてはないか、というこの問いに対しても 自の物質主義と、 が一貫していること	刻という異なる分野をどのように結びつけ、表現しているかを明らかにするこポンジュは美術批評的テクストを手がけるなかで二次元の芸術と三次元の芸術め、それらの境目を揺るがしながら「体験の感覚」を作り出そうとしているのう仮定が検証された。 まず、美術批評的テクスト全体にわたって、文字の物質性に基づくポンジュ独
親近性をみとめていたに、上記のようにのであれば、元来主査した。ポンジュオ書いたテクスト群っちより、距離や広以上のことから形で、きるような空間としています。 This study, according the state and the state an	とを確認した。伝統的に詩と絵画は、筆記具と平面媒体を用いる二次元の芸術 ち、相互の関連が論じられてきた。しかしポンジュは、むしろ両者を立体的な らえ、まさに平面から三次元的な空間を生み出すその点に、自身の詩と絵画の
Notes	
Genre Research Paper	
·	o.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2018000005-20180177

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2018 年度 学事振興資金 (個人研究) 研究成果実績報告書

研究代表者	所属	法学部	職名	専任講師	補助額	300 ((A)	千円
	氏名	綾部 麻美	氏名(英語)	Ayabe Mami			(A)	713

研究課題 (日本語)

フランシス・ポンジュにおける「体験の感覚」: 詩と造形芸術

研究課題 (英訳)

An "experiential space" of Francis Ponge : poetry and plastic arts

1. 研究成果実績の概要

本研究は、フランシス・ポンジュの詩における造形芸術の重要性を考慮し、ポンジュのテクストが詩と、絵画や彫刻という異なる分野をどのように結びつけ、表現しているかを明らかにすることを目的とする。ポンジュは美術批評的テクストを手がけるなかで二次元の芸術と三次元の芸術に対する考察を深め、それらの境目を揺るがしながら「体験の感覚」を作り出そうとしているのではないか、という仮定が検証された。

この問いに対してまず、美術批評的テクスト全体にわたって、文字の物質性に基づくポンジュ独自の物質主義と、テクストを対象とする事物(人物)それぞれの特質に合わせて適応させる詩法が一貫していることを確認した。伝統的に詩と絵画は、筆記具と平面媒体を用いる二次元の芸術という共通点を持ち、相互の関連が論じられてきた。しかしポンジュは、むしろ両者を立体的な存在感のうちにとらえ、まさに平面から三次元的な空間を生み出すその点に、自身の詩と絵画の親近性をみとめている。

次に、上記のように、ポンジュの造形芸術に対する強い関心が作品の三次元的なあり方に基づくのであれば、元来三次元の芸術である彫刻を語る場合にはどのような方法が用いられるのかを精査した。ポンジュが彫刻家アルベルト・ジャコメッティおよびアペル・レ・フェノザをめぐって書いたテクスト群を分析したところ、ポンジュが描く彫刻は、空間を占める質量をもった塊というより、距離や広がりという意味での「空き間」を感じさせるものとして現れてきた。

以上のことから、ポンジュは絵画および彫刻に関するテクストにおいて、二次元と三次元が入り混じるような形で、ときに触れられるかのような事物として、ときに鑑賞者が入り込むことができるような空間として「体験の感覚」を喚起しようとする、という考察が導かれた。

2. 研究成果実績の概要(英訳)

This study, according the importance to plastic arts in Ponge's work, aimes to clarify ways in which his texts associate and express different disciplines: poetry, picture and sculpture. Ponge might be said to create an ≪ experiential space ≫, through art criticisme which incline him to deepen reflection on art in two dimensions and art in three dimensions; their boundaries would be made cloudy. We see first the coherence of the Ponge's original materialism based on tangibles letters and his poetic which adapts verbally text to its subject. Traditionary, poetry and picture are seen both in two dimensions, their mutual relations discussed. However Ponge discerns these disciplines in a tangible presence similar to sculptural art, recognizes similarity between his poetry and pictural art. Second, we ask ways in which Ponge describes sculpture originally in three dimensions. Our analysis of textes on sculptors, Alberto Giacometti and Abel.les Fenosa, show that in Ponge's writing their works appear to be, contrary to general perception, not a mass occupying a space, but what makes feel the reader in a vacant space with distance or expanse.

These observations lead us to conclude that, in texts on plastic arts which bring picture and sculpture together in three dimensions, Ponge attempts to evoke a « experiential space » what could be touched or where the reader should enter.

Tongo decompto to ovoko u " oxportontiai opuco " wilat ocula be todolica ci "wiloto tilo todado citodi.									
3. 本研究課題に関する発表									
発表者氏名 (著者・講演者)	発表者氏名 (著者・講演者) 発表課題名 (著書名・演題)		学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)						